



ベトナム新婚旅行 / 準備編

2004年1月1日掲載

2004年申年1発目の「つれづれWEB」は、ベトナムへの新婚旅行の模様をお送りしよう。今回は、6回シリーズの超大作である。

「なぜベトナムなのか？」 疑問が湧くだろう。実は、某ローカルバラエティ番組の影響なのだ。

この番組は2002年に終了しており、現在は一部構成を変えて再放送されている。一方でDVDも発売されており、これを入手した。

内容は、ベトナムのハノイ ホーチミン1800kmをバイクで縦断しようというもの。ローカルタレント2人が、1日中バイクで走りっぱなしの珍道中を繰り広げているのだ。

このDVDを見て、嫁さんと2人で感動。ついには、新婚旅行でベトナムを訪れることにしたのである。

早速、旅行代理店へ。行く場所が場所だけに、なかなかいいツアーがない。

ハノイとホーチミンを訪れるツアーがあったのだが、こちらはベトナムまでの飛行機の手ケットはあるものの、ベトナム国内線の飛行機の手ケットが満席になっていて手配できるかどうか分からないとのこと。仕方ないので、このツアーはあきらめた。

ホーチミンだけのツアーなら、空席もあるという。しかも、当然ながら費用も安く済む。なのでホーチミンに決定！

そうと決まったら、ビザの申請。その前に、初海外の私にはパスポートがないので、パスポートの申請が先である。

パスポートを引き取りに行ったその足で、ベトナム大使館へ。意外にも、大使館にはビザ申請者が多く、用意されていたすには座りきれないほどだった。

それでも、15分ほどでビザが発給された。手数料は1人5000円。これを旅行代理店に頼むといい商売である。

ビザのコピーを旅行代理店に提出し、あとは行程表を待つのみ。電話で連絡があり、行程表を引き取りに行く。

あとは成田までの特急の切符を手配し、嫁さんの実家からスーツケースを借り、準備万端！
出発を待つのみである。

[\[トップページ\]](#)

この続きは[こちら](#)からどうぞ。



ベトナム新婚旅行 / ベトナム入国編

2004年 1月 8日 掲載

ベトナムへの新婚旅行の様をお送りしている「つれづれWEB」だが、今回はその2回目。1回目は[こちら](#)をご覧ください。

いよいよ出発当日、特急で成田へ。空港に着き、私と嫁さんで500米ドルずつを両替する。

飛行機の待ち時間を利用して、嫁さんは免税店で買い物。一方、私はネットでベトナムの天気をチェックする。

すると、ところどころに雷雨の表示が。雨季は終わったはずなのにと思いつつも、予想最高気温が30 以上なのにまた唖然。ま、熱帯ですからねえ。

離陸は17:40だというのに、離陸時間になっても搭乗手続きが始まらない。30分ほど遅れて、ようやく搭乗手続きが始まった。

成田を無事離陸し、一路ベトナムへ。これから約6時間のフライトである。

各座席には液晶モニターが備えられ、映画やゲームが楽しめるようになっている。だがしかし、ボウリングゲームをしようとしたところ、画面がフリーズしたのだ。

早速フライトアテンダントを呼んで対応してもらったが、固まったまま。結局、2時間ボウリングゲームのオープニングを見続けなければならなかった。

そうこうしているうち、ホーチミンのタンソンニャット空港に23時ころ到着。日本との時差は2時間である。

空港に降り立った瞬間、熱気に襲われる。熱帯に来たのだ！

まずは入国手続き。タンソンニャット空港では、ASEAN諸国専用の入国ゲートがある。日本人はASEAN非加盟なので、もちろん「その他」に並ぶ。

空港の出口には、歓迎の名前を掲げた人が大勢集まっている。その中で、我々の名前を持ったガイドさんを難なく発見した。

今回のツアーのガイドさんとドライバーさんと挨拶し、荷物を車に積み込む。そして、我々も。

乗り込んだのは我々2人のみ。ということは、今回のツアーは我々だけということなのか？

ガイドさんに聞くと、今回の行程は我々2人だけとのこと。つまり、ガイドさんとドライバーさんを独占なのだ！

空港から車で15分ほどで、ホテルに到着。チェックインを済ませ、部屋に入る。

ホテルのテレビをつけると、ベトナムのテレビを始め、香港や日本のチャンネルまで見れるのだ。さすがは高級ホテルである。

この日はホテルに着いて寝るだけ。本格的な活動は翌朝からとなるのだ。

翌朝に備え、寝る。続きは[こちら](#)を見ていただこう。

[\[トップページ\]](#)



ベトナム新婚旅行 / ホーチミン観光編

2004年 1月13日掲載

今年初っぱなの「つれづれWEB」は、ベトナム新婚旅行をお送りしているが、今回はその3回目。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)をご覧ください。

2日目、実質的にはベトナム1日目の朝である。ホテルでバイキング形式の食事をとり、ガイドさんと合流する。

この日はホーチミン市内を観光。まずはベトナム戦争終結の舞台となった統一会堂に向かう。

統一会堂は、ベトナム戦争前までは南ベトナムの大統領官邸だったところで、戦争時には地下に作戦司令室が設けられた。南北統一後は会議室として使われる一方、たくさんの観光客も訪れる観光スポットとなっている。

官邸には調度品のほか、貴重な品々も展示されている。こんなものもあった。



象の足をくりぬいた置物である。左から父象、母象、子象の足で、どこかの国からの贈り物だそう。

続いては、サイゴン大教会へ。19世紀末に建てられた、レンガ造りの教会である。

中に入ると、マリア像にはネオンが施され、周りには日本の千社札に当たるプレートが数多く張られていた。一方、教会前の広場では、結婚したてのカップルが写真撮影をしていたのだ。

今度は、隣の中央郵便局で休憩。炎天下の移動は、冬の体で来た日本人にはこたえる。

その次は、ベントイン市場へ。中は食品、生活雑貨から電気製品まで、いろいろそろっている。

しかし、これがまた暑い。熱気でやられそうになるのだ。

それでも、市場近くの店でベトナムのうどん、フォーを食べると元気も出る。この店、アメリカ前大統領も訪れたという。

フォーには鶏肉と牛肉が選べ、牛肉を選択。さらにアイ스티ーを頼む。

フォーを食べると、牛肉がやけに堅い。あとで聞いた話だが、ベトナムで牛肉といえば水牛の肉とのことらしい。

また、アイ스티ーもやけに色が薄い。ベトナムでは、ジャスミンティーのことをアイスティーと呼ぶようである。

満腹になり、今度は市内の雑貨店で買い物。嫁さんは、アオザイとワンピースを合計3着オーダーする。

採寸して、丸1日で仕上げて、ホテルまで届けて、3着で150ドル。いくらツアーリスト料金だからとはいえ、日本よりはるかに安いのだ。

そのほか、雑貨や焼き物も購入。ベトナムには、バッチャン焼という焼き物があり、室町時代には日本の茶人も愛用していたという。

買い物の合間を縫い、デザートとしてココナッツアイスを食べ。ここで街の往来を観察した。

某番組のDVDでも見たが、ベトナムはバイク、特にカブが町中にあふれている。ほとんど信号もあってないようなもので、「青は進め、赤は気をつけて進め」という意味のようだ。



バイクについてはあとで触れるが、バイクのおかげか排気ガスがすごい。ホーチミンのにおい=排気ガスという公式ができそうである。

ホテルに戻り、夕食まで休憩。夕食は、ベトナムの旧宗主国、フランス料理のコースを市内のレストランでいただく。

店内には、日本の雑誌で紹介された記事を大きく掲示。その一方、現地の人たちが子供の誕生会を催していた。地元の人も頻りに訪れるよ

うだ。

ここで、地元のビール「333ビール」を飲む。
「333」と書いて「バーバーバー」と読む。
非常に口当たりがよく、ビール党ではない私でも、グイグイ飲めてしまう。なかなかの味である。

宿に戻り、宿の近所を散策。何だかスルメのにおいがするなと思ったら、やっぱりスルメ。道端でスルメを焼いていたのだ。

宿の近くには船着き場があり、そこからは魚の電飾を施された観光船が出航するところだった。



宿に戻ろうとすると、付近の道路がトラックで大渋滞。おそらく埠頭まで延々と続いていたのだろう。

再び宿に戻り、就寝。翌日は、メコン川クルーズである。その模様は[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



ベトナム新婚旅行 / メコン川クルーズ編

2004年 1月18日掲載

今月の「つれづれWEB」は、ふくちゃん初海外であるベトナム新婚旅行をお送りしているが、今回はその4回目。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれからどうぞ。

3日目、この日もホテルで朝食。バイクングということもあり、ついつい朝からモリモリ食ってしまう。

ガイドさんと合流し、メコン川の街、ミトーへ。ホーチミンから南西へ70km、車で2時間ほどの距離である。

前回でもふれたが、町中はバイクだらけ。アオザイを着た女性も、裾をなびかせながらバイクを運転しているのだ。

しかも、2人乗り3人乗りは当たり前。男だけの3人乗りや、親子5人で1台のバイクにまたがっているのを見た。

さらに、人だけではない。はしごや植木、洗濯機や生きたアヒルなど、載せられる荷物は何でも載せてしまうのだ。

ホーチミンから郊外に少し出ると、辺りは田園風景に。沿道には牛の姿も見受けられるが、中国資本の工場も見られた。

2時間ほどでミトーに到着。ここから船でメコンデルタにわたる。

わずか5分ほどの船旅ではあるが、丸ごと椰子の実のココナッツジュースをもらう。ただし、冷えてないのが残念だった。



中州にわたり、蜂蜜茶で休憩。ただ休憩するならともかく、何とニシキヘビのサービスが！

巨大ニシキヘビを肩にかけるのだ。意外に重く、意外にひんやりとしていた。

その後、今度は果樹園でフル

ーツを食す。

ここでは、子供たちが民謡を歌い、若い女性もアオザイ姿でサービスする。

続いては、手漕ぎボートのジャングルクルーズである。某レジャーランドのそれとは違い、気の利いた(?)トークも、水の中から現れたカバを銃で撃つこともない。

メコン川の濁流を、年季の入った木造の手漕ぎボートでクルージング。ゆったりとした時間が過ぎていく。

手漕ぎからエンジンボート、車と乗り継ぎ、昼食の場所へ。昼食は、ひれの形が象の耳に似ていることから名付けられたという、エレファントフィッシュの素揚げなのだ。

これをライスペーパーでくるんで、甘酢や魚醤をつけて食べる。これといってクセもなく、なかなかの美味である。

さらに、サッカーボール大の揚げ餅の登場。そうそう、ここでも333ビールを飲んだのはいうまでもない。

昼食を終え、再びホーチミン市内へ。そのまま宿に着き、しばしの休憩である。

休憩もそこそこに、宿の近所にある国营デパートへ。喫茶店でベトナムコーヒーを味わう。

デパート内のスーパーで買い物。やはり、物価が安い！

500mlのミネラルウォーター 1本で2600ドン、日本円で20円にも満たないのだ。ちなみに、旅行に行った11月中旬現在のレートで、1000ドン = 7円だった。

ところで、ベトナムの通貨はドンだが、米ドルも通用する。店によっては、ドンではなくドルの値札がついているのだ。

原則として、ドンで書かれたものはドン、ドルで書かれたものはドルで支払うようだが、希望すれば換算してドンでの支払いもOKのようだ。ただし、店によりレートが若干変動する。

さて、国营デパートでは、ベトナム初開催となる「シーゲーム」のグッズも売られていた。シーゲームとは、東南アジアの国々が参加するスポーツ大会のことで、いわばオリンピックの東南アジア版である。

ベトナム初開催のシーゲーム、しかもホーチミンが会場になるとあって、市内はオレンジ色の水牛のキャラクターがあちこちに掲げられて

いた。

もちろん、私も友人のおみやげにシーゲームグッズを購入。しかし、ここでアクシデント発生！

ベトナムで日本人が行くところでは、だいたい英語か日本語どちらかが通用する。しかも、店員が日本語で話しかけてくる。逆に、日本人がつたない英語でも使おうものなら「日本語で言ってください」と言われてしまうのだ。

ところが、シーゲームグッズ売り場は、日本語はおろか英語も通用しない。英語ができる店員を呼びに右往左往していたのだ。

まあ、それでも何とかグッズを購入。ただ、危なく買うつもりのないものまで買わされそうになった。

夜になり、夕食。この日は、宿の近くのレストランで、民族舞踊を楽しみながらのベトナム料理である。



料理そのものは日本人の舌にあうものばかりだったが、いかんせん朝食をモリモリ食ってしまったのが響いてか、胃がもたれてあまり食べられなかった。これが唯一の心残りだ。

もちろん、ここでもビールは「333」。上の写真の左下に写っているのが、333ビールの缶である。

宿に戻り、地元のテレビニュースを見る。すると、アメリカの艦船がベトナム戦争終結後、初のベトナム来訪というニュースが流れた。

しかも、ホーチミンのサイゴン港に来たという。テレビでは、艦長が市内のホー・チ・ミンの銅像に献花する様子が映し出されていた。

テレビを見ていたら深夜も1時を回ったので、就寝。翌日は、実質的なベトナム最終日である。その模様は[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



ベトナム新婚旅行 / ホーチミン散策編

2004年 1月24日掲載

ベトナム新婚旅行をお送りしている「つれづれWEB」は、今回がその5回目である。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)、[4回目](#)は、それぞれをご覧ください。

4日目、この日もお約束のホテルで朝食。ツアーは5日間だが、帰りは機内泊となるため実質的なベトナム最終日である。

この日は終日自由行動で、ホテルも18時まで使用可能。昼間は買い物をし、宿に戻ってスーツケースにおみやげを詰めてチェックアウトする作戦である。

まずはデパートへ。昨日訪れたのとは別のところである。

洋服から電化製品、雑貨まで売られており、最上階にはゲーセンまである。そのおかげで、ゲーセンには子供がごった返していた。

続いては町中の雑貨屋へ。嫁さんが買い物している間、男は暇である。

雑貨屋を散策しつつ、2日目でも訪れたベトナム市場に到着。ここではおみやげのお菓子や食材を購入した。

市場の中には食堂もあり、人を選ばず客引きをしている。もちろん、ベトナム語で話されても何もわからないが。

市場からほど近いオフィスビルのサンドイッチ屋で、サンドイッチの昼食。ここで、アイスピーチティーのグラスを割ってしまう。

まさかベトナムまで来て粗相をするとは。ちょっとブルーになる。

このあと、ベトナムの父、ホー・チ・ミンの銅像へ。



昨夜のニュースでやっていた、アメリカ戦艦の艦長の

献花がちゃんと置いてあった。

ところで、銅像前の公園には人がほとんどいない。いても観光客程度である。

しかし、日が暮れると状況が一変する。どこからともなく地元の人が押し寄せ、ごった返すのだ。

大人だけではなく、家族連れも多い。やはり、日のあるうちは暑くて外に出たがらず、夕涼みに訪れるのだろう。

続いては、雑貨屋が多く並ぶドンコイ通りへ。いくつかの雑貨屋を回り、嫁さんは靴や雑貨を、私は会社のおみやげを購入した。

そのあとは本屋へ。地図好きの私は、ベトナムの地図を買ってみた。

さすがにベトナム語は読めないが、凡例は英語。ただ、ベトナム語はアルファベットで表記されるので、綴りの法則さえわかれば何という地名なのかはだいたいわかるのだ。

一度荷物を置きに宿へ。宿へ進行途中、ちょっとだけ雨に降られた。

雨といっても、傘のいらぬ程度。成田で見た予報に雷雨があっただけに、期間中は総じて天気がよかったのは何よりだ。

ただ、宿で日本のテレビを見ようとしたところ、「NO SIGNAL」の文字が。アンテナのある場所は大雨だったらしい。

宿を出て、前日行った国营デパートへ。目的は、嫁さんはエステ、私は足裏マッサージである。

足裏マッサージは、非常に快適。ちっぽけなすりこぎみたいので足裏のツボをグリグリやられたが、ちっとも痛くはなかった。

この日の移動はすべて徒歩。そのため、疲れが一気に吹き飛んだ。

宿に戻って、チェックアウト。ここでハプニング発生！

飲んでもいないミネラルウォーターの料金を請求されたのだ。どうも、買って来た水のブランドがホテルのものと同じだったようで、飲みかけを冷蔵庫に入れていたら「ホテルのものを飲んだ」と勘違いしたらしい。

そのことを説明すると、フロントも「OK」の返事で免除に。ちなみに、水の値段は2ドルで、国营デパートで買った値段の12倍である。

スーツケースをフロントに預け、ベトナム最

後のディナーへ。日本人が経営するベトナム料理のレストランでの食事だ。

ここで、今回の旅行最初で最後の生春巻きを食す。やはり、本場のはうまい。

食事も終わり、宿に戻ってガイドさんを待つ。いよいよ、ベトナムともお別れである。

空港までの道すがら、車窓からバイクだらけの街を見て名残惜しむ。彼らの日常は我々の非日常であり、そこが興味深いのである。

タンソンニャット空港に到着。ガイドさんとドライバーさんともお別れなのだ。この続きは[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



ベトナム新婚旅行 / ベトナム出国編

2004年1月31日掲載

「つれづれWEB」は毎月1か月間、ベトナム新婚旅行をお送りしてきたが、いよいよ今回が最終回！ [1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)、[4回目](#)、[5回目](#)は、それぞれからどうぞ。

ホーチミンのタンソンニャット空港に着いた我々は、ベトナム滞在中、完全にマンツーマンだったガイドさんとドライバーさんに別れを告げる。すると、今度は空港内のガイドさんがつくのだ。

空港内ガイドさんに、残ったドンを両替したいと申し出る。しかし、空港内ではもう両替ができないらしい。

ホテルに聞いたところでは、「空港でいつでもできる」みたいなことを言っていた。話が違ふと思いつつ、ガイドさんに懇願する。

しかも、両替する額がベトナム人の常識を越えた大金なのだ。その額、200万ドン！

今回訪れた2003年11月中旬のレートは、おおよそ1ドル = 110円 = 15500ドン。200万ドンは、日本円で約14000円となる。

この日訪れたデパートで、キャスター付きのクーラーが120万ドンだったから、いかにベトナム人にとって大金かがわかるだろう。そのため、ガイドさんも苦笑するしかなかったようだ。

結局、レートが悪くなるが、空港の電話カウンターで両替をした。ここでのレートは1ドル = 17000ドンであるが、やむを得ない。

なぜそこで両替せざるを得ないのか？ 実は、ドンは国外持ち出し禁止なので、ベトナム以外では両替できないのだ。

無事両替も済ませ、チェックイン。200万ドン両替してもまだ少量のドンが残っているので、空港内の売店でちょっとでもドンを減らそうと買い物にいそしむ。

買い物も終わり、搭乗までの時間を待つ。何気なく案内放送に耳を傾けると、おもしろいことに気づいた。

タンソンニャット空港では国際線の場合、ベトナム語、英語以外に行き先の国の言語でも放送が流れるのだ。待っているときにはパリ行き、大阪行き、東京行きの3便の案内放送を聞いた

が、パリ行きにはフランス語、大阪行きと東京行きには日本語のアナウンスが流れていた。

しかも、日本語は非常に流暢で、日本人のアナウンサーの声で吹き込んだように聞こえる。日本語の話せるベトナム人ではなく、ネイティブな日本語なのだ。

そんな感動もつかの間、搭乗手続き開始。いよいよ、ベトナムともお別れの時が来た。

空港を離陸すると、ホーチミン市内を一望させるかのように上空を旋回し、日本に向かう。約6時間のフライトである。

時計を日本時間に戻し、機内泊 とはいえ、ほとんどうたた寝程度。進行方向には、きれいな朝焼けが見えてきた。

現在のフライトの様子を表示した画面を見て、ふと気づいたことがある。現在の場所を示す地図に、ミスがあったのだ。

まず、島根県益田市が「増田」と表記されていた。それから、浜名湖のすぐ東隣にあるはずの静岡県浜松市が、どう見ても静岡県掛川市の位置にあたりするのだ。

今のところ、抗議は来てないのだろうか？
疑問である。

そんなことを発見しつつ、成田に到着。成田は、冷たい雨だった。

しかし、空港で特急を待っているころには雨が上がり、家に着くころには晴れてきた。

これにて、ふくちゃん初海外であるベトナム新婚旅行は終わった。嫁さんも、「今回はホーチミンだったから、次はハノイにしよう」とのこと。

さて、実現するかどうか ？

[\[トップページ \]](#)